

皆様へ

柏市立柏病院
院長 野坂 俊壽

平成27年度医療事故の一括公表について

当院では、安全に良質な医療を提供するために、医療安全管理室を中心に事故防止の様々な取り組みを進めております。

しかしながら、平成27度も18件の医療事故が発生しております。

その詳細について下記のとおり報告致します。

1 医療事故（*インシデントレベル3以上）の件数

発生場面	事故内容	件数
療養上の世話	転倒	11
	怪我	2
チューブ管理	中心静脈カテーテルにおけるカテーテルの自己抜去	1
その他	回路の接続	1
	再手術	1
	アラーム対応の遅れ	1
	結果説明の遅れ	1
合計		18件

2 医療事故の代表事例

事故内容	事例概要
中心静脈カテーテル留置術におけるカテーテルの自己抜去	<p>【概要】 認知症状がある状態で中心静脈カテーテルを挿入しており、四肢用の抑制帯からミトンに変更となっていたが、看護師が訪室するとミトンは外され中心静脈カテーテルを自己抜去していた。経口摂取困難であり、末梢からの血管確保も困難であったため、単径部から再挿入となった。家族と相談し、両上肢の動きは活発な状態が持続している為、点滴中はミトンによる抑制を実施することとなった。</p>
	<p>【改善策】 ○抑制帯使用中、緩みが生じ目的を果たせていない状態になっていないか観察を行い、その都度適切な状態にセットする。何度も同じ現象が繰り返される場合は、管理者・チームで検討し対応する。</p>
転倒	<p>【概要】 病棟にて看護師が付添い、シルバーカーを使用しての歩行練習の際、方向転換時にバランスを崩し転倒した。レントゲン検査にて骨折と診断された。</p>
	<p>【改善策】 ○付き添い歩行時は、転倒リスクなど患者の状況を十分に把握したうえで行う。また、患者を支えられるように立ち位置を考えて行動する。</p>

転倒	<p>【概要】 離床センサーマットを使用中の患者がベッドサイドで転倒し、後頭部に皮下出血と裂創がみられた。離床センサーマットの電源はONとなっていることは確認していたが、転倒時、電源はOFFとなっていた。本人は認知力の低下があり、転倒したことを理解していない。</p>
	<p>【改善策】 ○離床センサーマットを長期間使用する場合、電源の位置を工夫しON、OFFの確認をしていく。離床センサーマット使用中の患者の変化をとらえ、危険性についてチームや病棟全体で対応する。</p>

※インシデントのレベル

区 分	内 容
レベル0	・間違っただけの行為が実施される前に気がつき、患者には実施されなかった事例
レベル1	・間違っただけの行為が実施されたが、患者に治療を必要としなかった事例
レベル2	・事故により、患者に何らかの影響を与えた可能性があり、観察の強化や検査の必要性が生じた事例
レベル3	・事故により、治療が必要になった事例 ・事故により、軽・中度の障害が発生あるいは後遺症が残る可能性が生じた事例
レベル4	・事故により、深刻な病状の悪化もしくは治療の経過に重大な影響をもたらした事例 ・事故により、生活に影響する高度の後遺症が残る可能性が生じた事例
レベル5	・事故が原因で死亡した事例